

1. 対象

2年間の初期研修を終えた医師を対象とする。

2. 研修目的

産婦人科後期研修は、2年間の初期研修を修了した研修医が産婦人科専門医を取得するために必要な知識と技術の修得を目的に研修を行う。また日本産科婦人科学会に入会し、専門医取得に必要な講習会への参加、学会発表、原著論文作成等を行う。

当院産婦人科は岩手県南から宮城県北にわたる対象人口約20万人規模の広い医療圏を有している。周産期分野においては新生児科との連携のもとに妊娠28週以降の分娩について対応可能である。それにより様々な週数の妊娠分娩管理を学ぶことが可能であり、婦人科手術においても積極的に腹腔鏡手術にも取り組んでいる。

3. GIO(一般目標)

リプロダクティブヘルスへの配慮や女性のQOL向上を目指したヘルスケア等、21世紀の医療に対する要請に応えるために、女性特有の疾患、産褥に対応するための、知識、技術、態度を習得する。

4. SBOs(行動目標)

1. 女性特有の疾患による救急医療を研修する。
2. 緊急を要する他科疾患との鑑別を的確に行う。
3. 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識と技術を習得する。
4. 妊娠分娩と産褥期の管理を行う。
5. 新生児の医療に必要な基礎知識を習得する。
6. 育児に必要な母性とその育成を学ぶ。
7. 妊産褥婦に対する投薬、治療、検査を行う上での制限と特殊性を習得する。
8. 女性特有のプライマリケアを研修する。
9. 女性特有の思春期、性成熟期、更年期における生理的、肉体的、精神的変化を知る。
10. 女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を習得する。
11. 産婦人科診療に必要な基本的態度に配慮できる。
12. 産婦人科的問診法について説明し実施することが出来る。
13. 正しい産婦人科診察法を実施する。
14. 産婦人科臨床検査を正しく選択し実施する。
15. 正常妊娠、分娩、産褥の管理が出来る。
16. 正常新生児の管理が出来る。
17. 腹式帝王切開術の手順を実施する。
18. 流早産の管理ができる。
19. 産科出血に対する応急処置法が行える。
20. 急性腹症の鑑別と対応を行う。
21. 産婦人科手術の第1助手が出来る。
22. 婦人科良性腫瘍の診断と治療計画の立案が出来る。
23. 婦人科性器感染症検査、診断、治療計画の立案が出来る。
24. 婦人科悪性腫瘍の早期診断法と集学的治療を実施する。
25. 不妊症、内分泌疾患患者の治療に関して説明し実施することが出来る。

5. 研修内容

患者の担当医として診療にあたるが、治療方針の決定や手術に際しては指導医と共に行う。

病棟研修では、問診を含めた基本的な産婦人科診察法の修得より開始し、正常分娩・産褥・新生児の管理が一人で施行できるようにする。また、合併症妊娠や異常妊娠、婦人科疾患を含めた入院患者全般の管理を学ぶ。

外来研修では、産科新患の問診を担当し、積極的に診察にも参加する。婦人科再来患者の診察を施行できるようにする。

手術研修では、まず吸引分娩と帝王切開、子宮内容除去術を学ぶ。次に、技量を客観的に判断の上で婦人科手術、腹腔鏡下手術とステップアップしていく。

症例検討会、周産期ミーティングでは症例提示を行い、必要な指導を受ける。

その他、講習会、学会には積極的に参加する機会を与える。

1. 術前診察により手術患者の術前評価を行い、麻酔計画を立てることができる。(知識:想起・解釈・問題解決)
2. 術前患者や家族に、麻酔計画や合併症の可能性について適切に説明できる。(知識:問題解決, 態度, 技能)
3. 麻酔に必要な以下の基本的手技を正しく実施できる。(技能)
 - 用手的気道確保、気管挿管、気管チューブ以外の器具による気道確保、人工呼吸、分離肺換気
 - 静脈路確保、動脈カテーテル留置、中心静脈カテーテル留置
 - 全身麻酔、背髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、末梢神経ブロック
4. 手術患者の麻酔管理を行うことができる。(知識:問題解決, 技能)
5. 手術中に生じた病態の変化に応じて、適切かつ迅速に対応できる。[知識:解釈・問題解決, 技能]
6. 術後患者の状態を正しく評価できる。(知識:解釈・問題解決, 技能)

6. 研修方略

LS	方法	該当SBOs	場所	媒体	人的資源	時間	学習時間
1	SGD	1, 6	病棟 麻酔科診察室	術前検査 診療録	指導医 手術患者	1時間	毎日
2	病棟研修	1, 2, 6	病棟 麻酔科診察室	麻酔説明書 診療録	指導医 手術患者 患者家族	毎日	毎日
3	手術室研修	3, 4, 5	手術室	麻酔器 麻酔関連各種 診療材料	指導医 手術患者	毎日	毎日

7. 研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1~6	形成的	知識, 態度, 技能	指導医 看護師	症例経験中	自己評価 観察記録

8. 研修目標

GIO(一般目標)

1. 女性特有の疾患による救急医療を研修する。
緊急を要する他科疾患との鑑別を的確に行い、初期治療を行うための研修を行う。
2. 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識と技術を研修する。
妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に必要な基礎知識と共に、育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また妊産褥婦に対する投薬、治療、検査を行う上での制限と特殊性について理解する。
3. 女性特有のプライマリケアを研修する。
思春期、性成熟期、更年期における生理的、肉体的、精神的変化は女性特有のものである。女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を研修する。これらを学ぶことはリプロダクティブヘルスへの配慮や女性のQOL向上を目指したヘルスケア等、21世紀の医療に対する要請に応えるものであることを理解する。

SBOs(行動目標)

1. 産婦人科診療に必要な基本的態度に配慮する。
2. 産婦人科的問診法について説明し実施することが出来る。
3. 産婦人科診察法について説明し実施することが出来る。
4. 産婦人科臨床検査を正しく選択し実施することが出来る。
5. 正常妊娠、分娩、産褥の管理が出来る。
6. 正常新生児の管理が出来る。
7. 腹式帝王切開術の手順を説明し実施することが出来る。
8. 流産の管理が出来る。
9. 産科出血に対する応急処置法が出来る。
10. 急性腹症の鑑別と対応が出来る。
11. 産婦人科手術の第1助手が出来る。
12. 婦人科良性腫瘍の診断と治療計画の立案が出来る。
13. 婦人科性器感染症検査、診断、治療計画の立案が出来る。
14. 婦人科悪性腫瘍の早期診断法と集学的治療について説明できる。
15. 不妊症、内分泌疾患患者の治療に関して説明し実施することが出来る。

9. 研修内容

患者の担当医として診療にあたるが、治療方針の決定や手術に際しては指導医の監督下に行うことを原則とする。

病棟研修では、問診を含めた基本的な産婦人科診察法の修得より開始し、正常分娩・産褥・新生児の管理が一人で施行できるようにする。また、合併症妊娠や異常妊娠、婦人科疾患を含めた入院患者全般の管理を学ぶ。

外来研修では、産科新患の問診を担当し、積極的に診察にも参加する。婦人科再来患者の診察を施行できるようにする。

手術研修では、まず吸引分娩と帝王切開、子宮内容除去術を学ぶ。次に、技量を客観的に判断の上で婦人科手術、腹腔鏡下手術とステップアップしていく。

症例検討会、周産期ミーティングでは症例提示を行い、必要な指導を受ける。

その他、講習会、学会には積極的に参加する機会を与える。

10. 週間予定

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 病棟外来 業務	病棟回診 病棟業務 手術	病棟回診 病棟外来 業務	病棟回診 病棟外来 業務	病棟回診 病棟外来 業務
午後	手術 病棟回診	手術 症例検討会 病棟回診	1ヶ月健診 周産期ミーティング 病棟回診	手術 病棟回診	外来 病棟回診

11. 2015年実績

手術件数 総手術件数 316 件

(婦人科開腹手術 21 件、腹腔鏡下手術 79 件、経膈手術 47 件、その他 11 件)

分娩数 603 件 (帝王切開 158 件を含む)

12. 指導責任者・研修指導医・スタッフ

指導責任者: 菅原 登

指導医・上級医: 西本光男、荒井真衣子、高野 恭平

指導医 上級医名	役職	卒業年	主な分野	専門分野	臨床研 修指導 医
菅原 登 (すがわらのぼる)	第1産婦人科長 兼周産期医療 科長	2002 年	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医	周産期医療	○
西本 光男 (にしもとみつお)	第2産婦人科長	2004 年	日本産婦人科学会産婦人科専門医・ 指導医 日本周産期・新生児医学会周産期専 門医、医学博士		○
荒井 真衣子 (あらい まいこ)	産婦人科医長	2003 年	日本産婦人科学会産婦人科専門医 医学博士		
高野 恭平 (たかのきょうへい)	産婦人科医長	2010 年			